

しんらん誕生会報告

2026年5月9日～10日



新門徒初参式



坊主BAR



吹奏楽演奏



雪駄飛ばし大会



記念講演会



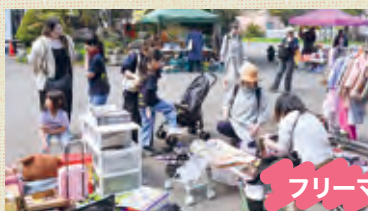
雅楽



子ども初参式



キッチンカー



フリーマーケット



ゲーム大会



旭川別院だより

真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

夏号

2026

発行所 真宗大谷派 旭川別院

輪番 福田 大

〒070-0030 旭川市宮下2丁目

TEL.0166-22-2409

FAX.0166-22-2411

■印刷: 植平印刷株式会社

■旭川別院ホームページ

旭川別院

検索

輪番感話

聖人は御同朋・御同行とこそかきずきておせられけり

〓 御文 第一帖 第一通〓

ひと昔前、「私にとって、お寺はただの風景でしかない」と、言われた方がおられました。その言葉の裏には、私にとってお寺は、私との関係性はなく、あってもなくても自らにとつては無意識の存在であるということでしょう。

かつてお寺の存在は、結婚をするようになったので、お寺で仏前結婚式を挙式させてもらいたい、また、子供が生まれたので住職に名前を考えてもらいたい、本堂で子供と一緒に参りをさせてもらいたい(初参式)と、生活の中にお寺が存在していたのではないのでしょうか。またお寺での中心的な行事である、報恩講をはじめ、修正会、春彼岸、盂蘭盆会、秋彼岸、永代経、除夜の鐘などの年中の諸行事には、欠かさずに出向いて皆でお勤をし、皆でお寺を支え、皆でお寺中心の生活をする中で、各家庭の日常生活にお寺への意識を欠かすことがなかったのでしょう。いわばどの家庭にあつても家族全員の意識の中にはお寺とそこで生活している住職や坊主や若院の存在があつたに違いないと、思われることです。

一方、お寺で生活する者(僧侶)にとつても、各御門徒の家庭事情や近況を常に気に掛けながら、息づかいが聞こえる距離感での共なる生活があつたのではないのでしょうか。今、私にそれだけの御門徒との距離感を感じさせる生活があるだろうか。「闇に関わるべき仏教者がまず、傍観者であることをやめなければならぬ。教団の組織の上にあぐらをかき、年中白足袋をはいて、世間のくらしをよそに生きている人間は、真の仏教者の姿ではないと...。口先だけの説法が、仏の心に背くことだと、身を震わせるものがあるだろうか。」と、松永伍一氏はその著書『原初の闇へ』で吐露されていることです。

お寺で生活する者(僧侶)からは、コロナ禍以降に参りの形態が激変してしまつたと、コロナ禍や経済的要因というこのみ盾にして、最も問われなければならぬ、お寺で生活している者(僧侶)としての私が一体、どれだけ御門徒との間柄を尽し、耳を傾け、御同朋、御同行として歩みを共にできているのか。我家族や自分のことだけにのみに気を取られ、それこそ世間(御門徒)のくらしをよそに生きている事実が、私の日常の只中にある事とは否めないと思わされることでもあります。

ある先生の本のなかで、「仏法を聞くということ(聞法)は、仏より我身のどうしようもない恥部を聞かされることであり、法話をするということは、聞こえてきた自らの恥部を皆さん方の前でお話させて頂くことではないか。」ということを書かれていたことを覚えています。果たして、どれだけ自らの恥部を御門徒の前で吐露することが出来ているのか。その事が私と御門徒との間柄を生きていく、お互いの息づかいが聞こえる距離感の生活になってくることではないのでしょうか。共に煩惱具足の身を、今ここに、生きている事実を仏の言葉に依りながら生活していくことこそが、お寺で生活する者(僧侶)であり、その一点において御門徒と共鳴させて頂くところに、御同朋・御同行としての生活の歩みがあるのではないのでしょうか。そのことを「本当に自分の弱さを深く知った人が/その弱さを悲しむ心において/ともに歩もうとする」と、宮城顓氏は御述懐されていることであると、私は頂いていることでもあります。

聞法とは(二)

真宗の教えに照らされる生活



士別市温根別町 教證寺住職 寺澤三郎

一、真実(本当)を知ら されることの大切さ

私の人生には、実に色々なことが起こります。健康が続く。逆に病気になる。お金が儲かる。逆に損をする。好きな人と一緒にいれる。逆に離れてしまう……。そこに一喜一憂し、右往左往しているのが私であるということを時折考えます。

以前あるお寺に伺った際に、次のような念仏者の言葉が掲示してありました。

嬉しい時でも 悲しい時でも

自分の人生は そこにある

当時、辛く悲しいことが生活の中で続いていた私は、この言葉に心を驚掴みにされ「その通りだ」と思い知らされました。この言葉から真実(本当)を言い当てられたのです。そして、辛く悲しいことと向き合う勇氣と力をいただきました。

嬉しい時は、そこに自分の人生があつてよかつたと思います。しかし、悲しい時、苦しい時、辛い時は、なぜここに自分の人生があるのだろうと逃げ出したくなります。

でも、どのような状況であれ「自分の人生を代わる人は誰もいない」これが真実。つまり本当のことです。經典の言葉では「身、自らの之を当くるに、有も代わる者無し。」

【意味：私の身(と生活)は、私自身が当事者であり続ける。決して誰も代わる者はいないのである。】

と表現されます。このようなことを教えられて「本当だな」と頷くことができて、悲しい出来事の時には、そこを生きていく力はなかなか湧いてこないのが私です。そのような私に対して阿彌陀仏は、「逃げだし

たくなるようなあなたの人生の出来事であつても、仏である私が、教えの言葉(本願)で励まし支え、その出来事から学ぶべきことを教えるから、一緒に真実に目覚めて生きていこうね」と「南無阿彌陀仏」にその心を込めて願ひ呼びかけ続けてくれるのです。

二、本願の教えに照らされる生活

当時の私が置かれていた状況は、連れ合いに病気がみつかり、治療が始まった時期でした。きつい治療に耐えながら過ごす彼女の病気が快方に向かうことを願ひながら、私たちが家族は様々な思いを抱えて生活をしていました。

治療で具合が良くない時は、これまで連れ合いがしてきてくれた家事や子どもの送迎などを、私が代わってやる機会が増えました。それらをやつてみると、「彼女はこんなに大変な思いをしながら、毎日私や家族を支えてくれていたのだな」と実感しました。同時に、そのことに思いを馳せずには素通りしてきたこれまでの私の至らなき、鈍感さに気づかされ、感謝の気持ちと申し訳ない気持ちにもなりました。

また、至らぬ私があらゆる人に支えられることで、人生を生かさせてもらっているという事実「はつ」とさせられ、不思議と頭が下がるのでした。

このことを通じて、深く自覚したことがあります。それは「一人ひとりのそこにある人生」は、自らの力で生きているのではなく、常にあらゆる人に支えられ続け、生かされ続けてきた人生であるということです。重要なのはそれが、真実(本当)であるということです。しかし、私は人生の多くを自分の力で生きている。これから

自分の力で生きていけると大きな錯覚を続けるのです。人生の真実は「おかげさま」であるにもかかわらず、そのことを見失い、その自覚が持続しないのが私であるということをお伝えしました。いのちを支えているあらゆることに對して「ありがとう(恭敬)」と「ごめんなさい(悲歎)」を忘れていく煩惱具足の私を照らしたのが「南無阿彌陀仏」の教えであると言えます。

三、南無阿彌陀仏に励まされて

当時私の家族の生活は、「嬉しい時か、悲しい時か」で言えば、悲しい時に当たります。その悲しい時でも、私たち家族一人ひとりの人生はそこにあります。代わるものは誰もいません。「身、自らの之を当くるに、有も代わる者無し」です。代わるものが誰もいない人生ではあつても、その人生は、自分一人の力で歩み続けることのできる人生ではありません。また一人で歩んできた人生でもありません。悲しい時でも、阿彌陀仏の本願の教えを聞くことで、逃げ出したくなるような辛い生活の具体的な事実を縁として、そのことを思索していく力をいただきました。

物事を自分の認識で受け止めると、それ以上のことに気がつくことはできません。仏教ではそれを「妄念」「妄執」といいます。そのような私に阿彌陀仏は、私にそのことを一人で抱え込まず、「一緒に学び真実に気づき続けていこうね」と「南無阿彌陀仏」となり呼びかけるのです。

私は時折、今回ご紹介した「嬉しい時でも 悲しい時でも 自分の人生は そこにある」という言葉を、南無阿彌陀仏と一緒に繰り返すことがあります。そうすると右往左往することや不安な心は無くならなくとも、不思議と安心に包まれることがあります。また同時に、「ありがとう」と「ごめんなさい」を忘れていた煩惱具足の私が照らし出されてきます。

念仏申し本願の教えを学ぶことは、人間の嬉しさや悲しさの中に大きな目覚めと安心が開かれていく豊かな営みであり、私の日暮らし全てがそのまま仏道に転換されていく不思議な歩みであるといいたいと思います。

孟蘭盆会のご案内

その人を失った悲しみの深さは、実はそのまま、生前その人から我が身が受けていた贈りものの大きさであつたのです。(宮城 顥)

孟蘭盆会(お盆の法要)は、目連尊者が餓鬼の世界で苦しむ亡き母をご縁として、お釈迦様の御前に詣でて教えを聞き、お釈迦様の教えに集う者たちと出遇われたという『仏説孟蘭盆經』の経説が起源です。お経に説かれる目連尊者は、亡き母の「恩」に「報いん」と欲われた方でした。我が身が受けていた「贈りもの」の「大きさ」を、お釈迦様のもとでその身に感じられたのでしよう。

●八月十三日(木)―初盆者追弔法要―

十四日(金)―孟蘭盆会―

十五日(土)―全戦没者追弔法要―

●午後一時～三時(本堂において勤行・ご法話があります)

●講師 川原 興文氏(旭川市江丹別 泰嚴寺前住職)

秋季彼岸会のご案内

令和八年九月二十二日(火)～二十四日(木)

彼岸の世界―それは吾々のまだ見ぬ真実の国であり、同時にまた懐かしき魂の郷里である。(金子 大榮)

彼岸とは仏様の浄土であり、先達はその世界を「死後の世界」ではなく、「真実の国」「郷里」と表現されました。私達において「浄土とは何なのか」を、今一度確かめさせていただく御仏事が彼岸会(お彼岸のお参り)です。皆様のご参拝をお待ちしております。

●時間・場所 午後一時～三時・旭川別院本堂

●日程 勤行・ご法話

●講師 黒萩 昌氏(蘭越町 法誓寺前住職)

公開講演会のご案内

●テーマ 「私にとって仏法とはなにか」

●日時 九月十五日(火) 午後一時～二時三十分

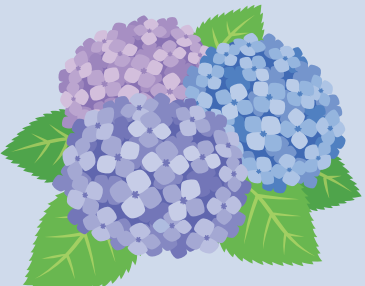
●会場 旭川別院本堂

※聴講無料です
共催 旭川別院同朋の会

講師

圓淨 和之氏

(深川市 澄心寺)



●日時

●対象

●参加費

●会場

●時間

●申込方法

●受付人数

●締切

●お問合せ

九月十一日(金)十三時三十分 現地集合

旭川別院ご門徒

お一人一、〇〇〇円(当日集めます)

金星橋パークゴルフ場

(旭川市東三条八丁十二丁目金星橋上流左岸)

十三時三十分～受付

十三時三十分～開会式・組分け

十四時頃～開始

電話又は別院事務所にて申込

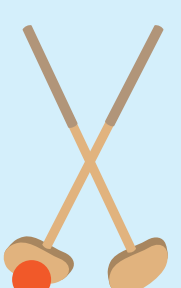
(受付時間はいずれも九時～十六時まで)

六十名迄

八月三十一日迄(定員になり次第締切)

〇一六六―二二―二四〇九(担当・横井)

旭川別院職員やご門徒の皆様が、スポーツを通して交流できればと思い、企画しました。沢山のご応募お待ちしております。



パークゴルフ大会のお知らせ

旭川別院婦人会

盆踊り

みんなで楽しく盆踊り!

8月18日(火) 午後1時～3時

旭川別院 大谷ホール1階

無料

盆踊り・軽食・ゲーム大会

どなたでもお気軽にご参加ください

内容

参加費

会場

日時

盆踊り・軽食・ゲーム大会

無料

旭川別院 大谷ホール1階

八月十八日(火) 午後一時～三時

このたび、二十数年ぶりに旭川別院婦人会で盆踊りを開催することになりました。久しぶりの開催に、役員一同ワクワクしながら準備を進めています。どなたでも大歓迎です。みんなで輪になって踊り、楽しい夏の思い出をつくりませんか。ぜひお気軽に遊びにいらしてください。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

婦人会盆踊りのご案内

別院子ども会



☆春のお泊まり会☆

楽しくお寺でお泊まりです!



☆いちご狩り☆

いちごをお腹いっぱい食べました!



☆新1年生はじめての子ども会☆

ドキドキのはじめての子ども会! みんなでクレープを作りました!

※子ども会のご案内や住所変更等については、別院までお問い合わせください。

＊販売期間＊

7月～10月頃

時間: 7時～14時

別院マルシェ

夏の無人販売

新鮮な野菜を心を込めてご用意しています

どうぞ自由にお選びください

※野菜は御門徒より提供いただいております

場所: 旭川別院 境内

時間: 7:00～14:00

料金: お気持

※野菜は御門徒より提供いたします

旭川別院

七月より、ご門徒の方で生産された新鮮野菜の無人販売を、本堂内にて行っています。

今まで別院の本堂に入った事のない方や、お寺を身近に感じる機会の少なかった方にも、この販売を通して気軽に足を運んでいただき、お寺とのご縁を結ぶきっかけになればと願っています。

早朝から販売をしています。おあさじ(朝のお参り)に併せて是非お立ち寄りください。

別院マルシェのご案内

2025年経常会計決算並びに2026年度予算

<2025年度決算>

2025年度歳入決算

法務収入	¥86,018,000
法要収入	¥6,369,788
諸懇志	¥51,923,628
資産収入	¥60,844
回付受金	¥176,760
還付金	¥909,316
雑収入	¥756,112
繰越金	¥10,957,945
合計	¥157,172,393

2025年度 旭川別院 経常部 決算 歳入の部 計 ¥157,172,393

法務収入 55%

諸懇志 33%

法要収入 4%

還付金 1%

雑収入 0%

繰越金 7%

資産収入 0%

2025年度歳出決算

寺務費	¥15,105,592
維持管理費	¥4,220,687
運営費	¥109,294,733
負担金	¥13,209,205
回付金	¥4,000,000
予備費	¥116,490
合計	¥145,946,707

2025年度 旭川別院 経常部 決算 歳出の部 計 ¥145,946,707

運営費 71%

負担金 9%

寺務費 10%

維持管理費 3%

回付金 3%

予備費 0%

<2026年度予算>

2026年度歳入予算

法務収入	¥87,050,000
法要収入	¥6,000,000
諸懇志	¥50,400,000
資産収入	¥30,000
回付受金	¥180,000
還付金	¥900,000
雑収入	¥500,000
繰越金	¥11,000,000
合計	¥156,060,000

2026年度 旭川別院 経常部 予算 歳入の部 計 ¥156,060,000

法務収入 56%

諸懇志 32%

法要収入 4%

還付金 1%

雑収入 0%

繰越金 7%

資産収入 0%

2026年度歳出予算

寺務費	¥14,860,000
維持管理費	¥4,860,000
運営費	¥111,220,000
負担金	¥13,920,000
回付金	¥5,000,000
予備費	¥6,200,000
合計	¥156,060,000

2026年度 旭川別院 経常部 予算 歳出の部 計 ¥156,060,000

運営費 71%

負担金 9%

寺務費 10%

維持管理費 3%

回付金 3%

予備費 0%

救援金のお願い 宗派では、このたび災害の種類や発生の有無に関わらず、救援金を勧募しています。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。▶▶▶

幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

二〇二六年度がスタートしました！雪解け、春、初夏への季節の移り変わりを全身で感じている子ども達。ひらめきや発見が溢れる毎日です。

＜畑の活動＞
育てて食べたい野菜を、話し合って決めました！
種、苗をお店に行って選んで買いました。



たんぼぼケーキできたよ！



シロツメクサをじつとみつめます



このフワフワの綿なんだろう？



調へ
北方野草園で植物



焼き肉パーティー



木の名前を調べて看板を作りました



クジャクチョウみつけた！



調へ
北方野草園で植物



絵本「しれとこのきょうだいヒグマ」ヌブとカナのおはなし



今年度のお楽しみ給食は、日本の各地メニューです。



旭川別院の御門徒の方々に協力いただきまして、当院の境内清掃を行いました。
清掃後は参加者全員でBBQをし、食事を楽しみながら交流を深めました。ご参加、お手伝い頂きまして誠にありがとうございました。

草刈り・BBQ交流会

終活セミナー

一般に「終活」とは、必ずおとずれる死に対して今、心配なことを整理、準備していく事です。この度、終活アドバイザーをお招きしセミナーを開催しております。
この生を終えるまでに、いかに大切な日々を安心して過ごせていくのか、仏教のお話に尋ねてみませんか。
(写真は第一回目、「葬儀について」)



うどんダ

「井畑、ちゃんと生きていますか？」

今から二十数年前、私の態度や言葉づかい、そして会話の内容を聞いておられた旭川別院元職員の田口弘先生からこのように言われたことがあります。私の方を見て「ちゃんと生きていますか」私は、思わず腹がたちました。え？なんで私にそんなことを言うのだろう。先生は目が見えていないのに、どうして判るのだろう。私が思う「ちゃんと生きています」とは、人に負けない、馬鹿にされない、仕事を生活の成り立たせることでした。それが何が悪い？しつかりやってくるよ。だから私は先生に尋ねました。「先生、ちゃんと」の意味がわかりません」とすると先生は、このように言われました。「お前なあ、仏さまの話をちゃんと聞いていますのか。坊さんだろ。撰取不捨の教えの意味わかってるのか。『えらばず』『きらわず』『みすてず』『だぞ。』それでな、井畑「ちゃんと生きていますか」とはな、人と人との関係性を生きることなんだよ。お前の話を聞いていると、『えらんで』『きらって』『みすてて』、自分のことばかりじゃないか。それは、仏さまが願っておられることの逆の生活だよ。何でわかんねえのかよ」と叱られたことがありました。

田口先生は、二〇一七年八月十五日、心臓発作により急逝された今、「ちゃんと生きていますか？」という言葉は私自身の姿を照らし出す仏の言葉であり、問いとなつて私に呼びかけて来ます。

井畑毅俊

法座・行事案内予定

8月

1日	午後12時	お盆参り
13日	午後1時	初盆者追悼会
14日	午後1時	孟蘭盆会
15日	午後1時	前戦没者追悼会
18日	午後1時	婦人会
未定日		あゆみ会
川原 興文氏		
川原 興文氏		
川原 興文氏		
川原 興文氏		

9月

1日	午後7時	公開学習会
7日	午後1時	群萌の会
13日	午後1時	初心の集い 輪番・列座
15日	午後1時	公開講演会
16日	午後1時	同朋の会
18日	午後1時	婦人会
19日	午後7時	壮年の集い
22日	午後1時	秋季彼岸会
未定日		あゆみ会
黒秋 昌氏		
黒秋 昌氏		
黒秋 昌氏		
黒秋 昌氏		

10月

1日	午後7時	公開学習会
7日	午後1時	群萌の会
13日	午後1時	初心の集い 輪番・列座
16日	午後1時	同朋の会
17日	午後7時	壮年の集い
18日	午前10時	婦人会
未定日		あゆみ会
明光氏		
明光氏		
明光氏		
明光氏		

11月

1日	午後5時	旭川別院報恩講
(1日 速夜)	(3日 日中)	府録
7日	午後1時	群萌の会
16日	午後1時	同朋の会
18日	午後1時	婦人会
28日	午後1時	御正忌
未定日		あゆみ会
雄司氏		
雄司氏		
雄司氏		
雄司氏		